

炎暑の終戦記念日とのイメージを覆した令和3年の終戦記念日は、生憎の雨であり、凌ぎ易くて良かった。「英霊にこたえる会主催 第46回全国戦没者慰霊大祭」とそれに引き続き行われた「第35回戦没者追悼中央国民集会（英霊にこたえる会・日本会議主催）」に大東亜慰霊協として参列した。双方ともに規模を縮小しての開催であったが、止むを得ないことだろう。所見を幾つか述べたい。

### 1 終戦の日の靖国神社参拝者の状況



雨にも拘らず、写真の如く、例年通りの長蛇の列だった。密回避且つ傘のために大混雑という訳ではなかったが。

終戦の日に戦没者に対して尊崇の念を捧げる者が多いことにある意味では安堵する。日本もまだまだ捨てたものではないと。

### 2 慰霊大祭（0900～）



慰霊大祭は、拝殿及び本殿において、厳粛に斎行された。祭文の要点は、厳しい状況下での五輪成功は英霊の加護であり、規模縮小開催は申し訳ない。英霊にこたえる会としては、今上陛下の靖国神社への御親拝を切望し、そのために総理・閣僚の靖国神社参拝の定着化こそ肝要であると認識、現状は甚だ遺憾である。

時代の応じた意識改革と新たな視点に立った活動を振起することこそ肝要。

### 3 戦没者追悼中央国民集会（1030～1230） 於：靖国会館



国歌斉唱靖国神社拝礼の後、終戦の詔書（玉音）拝聴  
主催者代表の挨拶の後、各界代表の提言（自民党参議院議員和田政宗氏、元豪州大臣トムソン氏、作家門田隆将氏）、戦没者の黙祷（正午に合わせて）、天皇陛下のお言葉拝聴（武道館の政府主催式典の実況放送より）、声明文朗読、「海ゆかば」の斉唱との次第であった。

- ① 終戦の詔書をじっくり読み且つ拝聴して、昭和天皇のご心中が拝せられ、改めて感動を覚えた。国民齊しく一度はじっくりと読んでも貰いたいものだ。
- ② 主催者、提言者等しく、現状を深く憂え、その烈々たる想いに意を強くした次第である。
- ③ オンラインで開催された国民集会で採択された「声明文」の要点・肝は次の通りである。

『しかし、もはやこのような無為無策の状態が許されるはずがない。まず、新柄コロナウイルスの感染を収束させるべき強制力のある施策を可能とする法律や憲法改正、他方国際社会と連帯して中国の覇権主義に強く対峙し、我が領土を守るため、防衛法制の整備や自衛隊の憲法への明記が不可欠である。その実現のため、国会は速やかに

改憲論議を開始すべきである。・・・我々が享受している今日の平和と繁栄の礎となられ、貴い一命を捧げられた、ここ靖國神社に静まります二百四十六万余柱の英霊の前に、これらの諸課題に取り組み、令和の御代において正しく強く美しい日本国の再生を図るべく、国民運動のさらなる展開に邁進することを誓う。』

#### 4 忌憚なき所見

主催者の意とするところに異論は全くないが、同じような議論が何年続いたのだろうか？戦後75年を経てもなおかつ日本再生の展望は開けてこない。新型コロナ対応は有事（ともいえる状況）に平時（の態勢で）対応せざるを得ない我が国の法的欠陥を露呈した。

また、厳しさを増す国際情勢は、日本歴史上最大の国難ともいえよう。懸かる状況に触発されるかと期待された国民の覚醒も起きず、無為無策の国家的対応、危機感のない政治家や木鐸を自認する識者に対し、大いなる失望を禁じ得ない。

我は何を為すべきか？大東亜慰霊協の地位役割を再認識して地道に努力するしかないのだろう。

(了)